

『ほどジャガ』で伝えよう保土ヶ谷の魅力 ～こちら「保土ヶ谷まちおこし振興会」保土小支部～

指導者 今辻宏紀

1、単元について

(1) 単元の立ち上げ

「保土ヶ谷のことで知っていることはなに？」総合の単元の立ち上げで子どもたちに問う。すると子どもたちからは、目に見える地域の場所やその名前は次々にでてくる。しかしながら、目に見えない地域の良さや歴史、保土ヶ谷の特色については出てこない。「保土ヶ谷の名物は？」と問うと、手が下がってしまう状況があった。自分たちの住んでいるこの保土ヶ谷のまちのことを子どもたちがもっと深く理解し、自分のまちを愛することができる人になってほしいと考えた。また、本学級は自分の思いや考えを表出することに苦手意識をもつ児童が多い。この総合学習の単元を通して、知識理解だけでなく、心情や学び方の変容も求めていきたいと考えている。

単元の立ち上げにあたり、子どもたちにどんな総合をやりたいのか聞いたところ、①体験活動ができること②人（地域）とかかわれること③保土ヶ谷のまちの食べ物を取り上げたいなどの意見がでてきた。材を探すためにタウンウォッチングへ出かけたところ、「伝説のじゃがいも、ほどジャガ」とかかわれているポスターに目が留まった。そこにいた地域の方に、「食べたいの？これがほどジャガですよ。どうぞ。」と、1つのジャガイモをいただいた。それを持ち帰って食べたところ、子どもたちは「美味しい！」と声を上げた。そこから本学級の総合の単元がスタートした。

材が決定すると、子どもたちは、「ほどジャガ？」「保土ヶ谷に畑があるの？」「このポスターのキャラクターはなに？」「どうして伝説なの？」と追及意識を高めた。

(2) 単元の意図

本単元では、国語科や社会科、家庭科の学習ともからめながら、児童の身近な地域とのかかわりの中から疑問をもち、「人・もの・まち」とのかかわりを通して問題を解決することで、地域を知り、地域のよさに気付くことをねらいとしている。地域の方にインタビューしたり、実際に「ほどジャガ」の育て方や作り方を教えてもらったりする活動を通して、町の人々の思いや願いに気付かせていくとともに、見付けた問題を友達と協力して解決していく力を伸ばしたいと考えた。また、ほどジャガの良さを伝えることを通して、まちおこしの一翼を担う態度を育てたい。そのためには、ほどジャガはもちろんのこと、保土ヶ谷の「人・もの・こと」とのかかわり合い、好きになることで、「伝えたい」「保土ヶ谷のまちをもりあげたい」という思いを引き出す必要がある。そして、地域の人やお店、神奈川テーブルテレビに協力をいただきながら、「伝える」という単元後半部分の活動を子どもが主体的、協働的に行っていくように単元を構成していきたい。

(3) 児童の実態

2、単元目標

- 保土ヶ谷の人・もの・まちに関心をもち、「ほどジャガ」を通してまちの人々をふれあいながら調べたり、作ったり、伝えたりする活動を自主的に行うことができる。
- 活動を通して保土ヶ谷のまちのよさを知り、友達や自分のよさに気付き、お互いを認め合う心をもつことができる。

3、研究主題に迫るために

◎研究主題

『使う 深める 活用する情報教育』～情報活用能力の高まり～

○授業における視聴覚教具の活用

・大型ディスプレイ ・PC ・デジタルカメラ ・デジタルビデオ ・実物投影機 ・編集ソフト

○横浜の時間における指導の手立て

①自分の身の回りのことから問題を見付ける～材との出会い、単元の構成の工夫～

- ・「人・もの・まち」に関心をもち、主体的に調べられるように、子どもと材の出会い方など、単元の構成を工夫する。
- ・わからないことは、友達に相談したり、人に聞いたりして、いろいろな方法で問題を解決しながら活動を展開できるようにしていく。

②思いや願いの実現に向けて、主体的に解決していく。

- ・調べたいことについての学習計画を立て、人に聞いたり、資料を探したりして情報を集める。
- ・自分が発見したことや考えたことを、伝える対象に明確にしてわかりやすく表現する。

③よりよい生き方を求める。

- ・保土ケ谷のまちに誇りをもち、このまちに住む一人として、自分のできることは積極的に取り組もうとする。
- ・友達と協力し合って探検したり発表したりする活動を通して、友達のよさを認め、自分たちの力を実感する。

④主体的、共同的な学習を実現するために、他教科との関連を図った上でのラーニング・スキルの習得

- ・学習計画を立てる、1時間ごとの過程を大事にする（振り返りと次時のめあての設定までを子どもたちが決める）などを各教科で取り組み、国語、社会、理科、体育など他教科にもつながるラーニング・スキルを汎用的に使えるようにする。

○視聴覚機器の活用の視点

①YCV（横浜ケーブルテレビ）テレビ放送についての放送教育

- ・自分たちの伝えたいことを広げるために、横浜ケーブルテレビに協力を依頼し、子どもたちが伝えたいことをCMで作れるようにした。子どもたちは「ほどジャガ」に惚れ込むとともに、ほどジャガを保土ケ谷の名物として設定してまちに広めるために活動していく。その中でテレビでCMを作成するという方法に出会う。どのようなCMをつくれば、ほどジャガの良さがまちに広まるのかについて、実際にICT機器を使いながら放送教育を身に付けていきたい。

②デジタルビデオ・デジタルカメラを使用した情報収集・整理

- ・ほどジャガの良さを伝えるための情報収集・整理について、今回はデジタルビデオとデジタルカメラを使用して行う。収集した膨大な情報のなかから整理していく力も養えるように授業場面を工夫する。「ほどジャガの良さ」が伝わるような動画や写真を撮り、整理していく。

③学校の情報機器・放送設備、編集ソフトを使ったCM制作

- ・CMを作成するにあたり、学校の放送設備や情報機器を使用する。また編集ソフトを使い、「ほどジャガの良さ」が伝わるようなCMづくりを目指して、動画や写真を編集していく。

④他教科でのICT機器の活用による技能向上

- ・総合の授業だけでなく、他教科での授業でも、普段の授業から視聴覚機器にふれさせていく。

4、本单元にかかわる教科の内容と想定される場面

教科等	内容	具体的な学習場面
国語	・調べたことや調査の報告をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすること。 ・学級全体で話し合って考えをまとめたり、意見を述べ合ったりすること。 ・図表や絵、写真などから読み取ったことを基に話したり、聞いたりすること。 ・目的に合わせて、提案書、案内状、礼状などの手紙を書くこと。	・自分たちの課題についてほどジャガの育て方や歴史について調べたことをもとに話し合う。 ・農家や地域の人との手紙のやりとりをする場面 ・テレビ局にCM政策以来の手紙を出す提案書を作る場面。
社会	・伝えたいこと放送をするために必要な技術や伝え方知り、放送すること。 ・売買にともなう金銭感覚を養う。	・テレビ番組でのCNづくり ・フリーマーケットでの出店
家庭	・ほどジャガを使った料理とその調理方法を知り、調理する。	・ほどジャガを調理して食す場面
特活	・平素の学習活動の成果を発表し、その向上を図る活動を行うこと。	・PR集会や朝会、ほどっ子フェスティバルでの紹介活動
道徳	・自分でやろうと決めたことは、粘り強くやり遂げる。 ・自分のまちを愛する心を育てる。 ・自己有用感を感じることができるようになる。	・地域行事の参加。保土ヶ谷宿場祭りやごうど市への協力

6、身に付ける資質や能力及び態度（下線は重点化項目）

資質能力及び態度	視点	小学校高学年
学習方法に関すること	課題解決に向けた情報の収集 <u>必要な情報の整理・分析・考察</u>	収集した情報を整理し、様々な視点から分析したり、推論したりして解決に向けて考える。
自分自身に関すること	<u>目標を決め課題の解決に向けた行動</u>	自分のもっている知識や技能を課題解決のために活用し、最後まであきらめずに探究する。
他者や社会との関わりに関すること	<u>地域での活動と社会へのかかわり</u> 他者とのコミュニケーション	自分と地域とのかかわりを考えながら、地域の活動にかかわっていく。

7、単元の構想



学習活動と内容

導入 社会科：農業（お米づくり）からの地域とのつながり

第一次 「ほどジャガ」とまちの人との出会い

- 自分たちのまちで知っている、総合でどんなことを取り上げたいのかを出し合う。①
- まちにタウンウォッチングに出かける。→ポスターを見付け、「ほどジャガ」と出会う②③
- もらった「ほどジャガ」をふかして食べてみる。④⑤

第二次 「ほどジャガ」のことをもっと知ろう

- ほどジャガを育てたいという思いから、農家の三村さんにほどジャガのことを聞いてみる。⑥
- ほどジャガの種芋をもらい、学校の畑に植える。⑦⑧
- ほどジャガのポスターにのっているキャラクターから疑問に思ったことを出し合う。⑨
- ほどジャガのキャラクターを作った山田さんにどうしてキャラクターを作ったのか聞いてみる。⑩
- ほどジャガの歴史について調べる。⑪
- ほどジャガの歴史について、桑名屋の近藤さんと、渡辺さんに聞いてみる。⑫
- ほどジャガについて調べたことをまとめる。⑬⑭⑮⑯

第三次 「ほどジャガ」のことをもっとまちの人に知ってもらおう。

- ほどジャガについてまちの人にもっと知ってもらうために、どれくらいの人がほどジャガを知っているのかについて調査する。⑰⑱
- ほどジャガをまちの人へ広めて、名物にしてまちを盛り上げる活動計画を立てる。⑲
- ほどジャガの良さをまちの人へ広めるためには、どのような方法があるのかについて話し合う。⑳
- 宿場祭り、ごうど市でほどジャガを売るお手伝いをする内容について話し合う。㉑

- 宿場祭り、ごうど市でほどジャガを売る準備をする。㉒～㉔
- 宿場祭り、ごうど市でほどジャガを売るお手伝いをする。㉕～㉗
- 宿場祭り、ごうど市でのお手伝いの振り返りをする。㉘
- ほどジャガを広める活動をするために、ポスターやチラシを作る。その資金を集めるためにフリーマーケットに参加する計画を立てる。㉙
- フリーマーケットに参加する準備をする。㉚～㉜
- フリーマーケットに参加する。㉝～㉞
- ポスターやチラシを作る。㉟
- より広く、多くの人にほどジャガのことを知ってもらえるように、テレビ局へ CM づくりの提案書を書く。㊱
- どんな CM にしたいかについて話し合う。㊲
- CM を作るための情報を集める。㊳～㊵
- CM にどんな要素をいれたらよいのかについて、集めた情報をもとに話し合う。㊶（本時）
- 合わせた CM の原案をテレビ局に送付し、放送された CM について振り返る。㊷

第四次 ほどジャガと地域の人、自分たちについてまとめよう。

- 自分たちが調べたことを校内の学習発表会で発表する計画を立てる。⑤⑦
- 学習発表会の準備をする。⑤⑧～⑥④
- 学習発表会をする。⑥⑤⑥⑥
- 自分たちで作ったほどジャガの収穫祭を行う。⑥⑦⑥⑧
- 地域の人たち、ほどジャガに携わっている人たちに自分たちが学んだことを発表する準備をする。
⑥⑨～⑦②
- 学んだことを地域で発表する。⑦③⑦④
- 一年間の振り返りをする。⑦⑤⑦⑥

終末 保土ヶ谷のまちを愛する一人として、これからも一人ひとりにできることと

9、本時展開

本時目標

「ほどジャガのよさ」が伝わるような PR 映像を作るために、どのような PR 映像にすればよいのかについて、各グループが作った PR 映像をもとに話し合うことができる。

本時の展開

学習活動と内容	評価規準と指導の手立て (◇)
①本時のめあてを確認する。	
第3回編集会議 (ほどジャガを広めるための)「自分たちの取り組み」の CM についてアドバイスし合おう。	
【発表者】が【司会】【記録】を務める。 ②【「自分たちの取り組み」の映像例 A・B についての編集会議】 ○担当グループに伝えたい「自分たちがこの CM で伝えたいこと」を説明してもらいながら、「取り組み」の映像例を大型ディスプレイで見る。 ③各グループごとに、「取り組み」の映像例 A・B を PC で比較し、繰り返し見ながら、アドバイスをワークシートに書く。 ④A の映像についてのアドバイスタイム ・写真に音声を重ねた部分が分かりやすい。 ・自分たちが一番伝えたいことはほどジャガとの出会いと宿場祭りでの活動だから、伝えたいことが伝わる映像になっていると思う。 ・宿場祭りの説明はいらないのかな。 ・ほどがや弁当の写真があったほうがよいのでは。 ・言葉をもっと短くすれば時間に収まると思う。 ⑤B の映像についてのアドバイスタイム ・動画に音声を重ねるやり方もいいね。 ・動画は見やすい。 ・インタビューの動画と提案書をうつしていてわかりやすいと思う。 ・でもゆっくり見せたいなら写真だと思う。 ・自分たちの活動で伝えたいのは自分たちの提案書を書いてわたして、自分たちの考えを実現できたことだから、そのことをのせられるといいと思う。 ⑥A と B 映像例を比べて、どちらがよいのか、よかったところ、改善点について話し合う。 ・僕は A の映像の方がよいと思います。なぜかというと、宿場祭りの様子が写っているからです。町を盛り上げようとしている僕たちの活動が伝わると、ほどジャガが広まるきっかけになると思うからです。 ・私は B の映像がよいと思います。こっちの映像は自分たちの取り組みがたくさん写っているからです。 ⑦振り返りを行う。(全体での振り返りと個人のふりかえり、ワークシートへの記入)	※【発表者】が【司会】【記録】を務める。 <u>テレビ番組内で流す PR 映像</u> <u>PR 映像構成表：1 グループ 30 秒×7 グループ (4 人ずつ) 210 秒間</u> ・アドバイスをし合う視点を確認する。 ・視点をもとにアドバイスができるようにする。 アドバイスの⑧つのポイント ① <u>その班が一番伝えたいこと(ほどジャガの〇〇)が、見えて伝わるかどうか！！ここが一番大事</u> ② <u>セリフの内容。伝えたい内容が、短く、わかりやすくなっているかどうか！</u> ③ <u>言葉だけでなく、とる場所や、背景なども伝えたいことが伝わるように工夫しているかどうか。</u> ④ <u>A と B を比べてみて気付いたこと</u> ⑤ <u>大きな声で、はっきりしゃべれているか。</u> ⑥ <u>明るく笑顔でしゃべれているか。</u> ⑦ <u>カメラの角度を工夫しているかどうか</u> ※写すべきものが写っているか 映像として見やすい角度か ⑧ <u>アップとルーズを使い分けているかどうか。</u> ・「<u>アドバイスワークシート</u>」を活用する。 ・子どもたちの意見交流の内容が深まるように、具体的な動画や写真を子どもたちが大型ディスプレイや各グループの PC で提示しながら話し合いができるようにする。 ・よりよい映像についての話し合いが深まるように、各グループ 2 つの映像例を作成し、その 2 つの映像を比較しながら話し合うようにする。 <u>使用する視聴覚機器</u> ・大型ディスプレイ ・PC 評価規準 ほどジャガの良さが伝わるような要素や効果とその理由を、映像例 AB を比較しながら考えることができる。

0	30	60	90	120	150	180		
はじめ	歴史	美味しさ	農家	まちの人	渡邊さん	山田さん	近藤さん	おわり